横浜市立 領家中学校　　学校評価報告書　　（ 令和 元 ～ 3 年度 ）

重点取組分野	令和 元 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①新学習指導要領実施に向けて、ｶﾘｷｭﾗﾑﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄの作成、授業実践の具体化に努める。 ②習熟度別少人数指導やTT指導の実施、特別支援教室の整備など、個に応じた指導を推進し学力向上を目指す。	①新学習指導要領実施に向けて、2回の研修会を実施し、ｶﾘｷｭﾗﾑﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄの作成、授業実践の具体化に努めた。 ②習熟度別少人数指導やTT指導を実施し、特別支援教室の整備など、個に応じた指導を推進し学力向上を目指した。	B
豊かな心	①班活動や学級活動を通して、集団の中での自己擁立をはかり、自己有用感を高め、自己の生き方について考える。 ②道徳の授業や人権週間、人権講演会、人権標語作りに取り組む中で、考えを深め、思いやりの気持ちを育む。	①班活動や学級活動を通して、集団の中での責任や達成感を感じることができた。 ②道徳の授業や人権週間、人権講演会、人権標語作りに取り組む中で、他者への思いやりの気持ちを育んだ。	B
健やかな体	①保健体育の授業や部活動等教育活動全般を通して、健康・安全に関心をもち、意欲的に取り組む姿勢や態度を育む。 ②学校保健計画に基づき食育を含めた保健指導や学校保健委員会等を計画的に実施し、心身への健康意識を高める。	①保健体育の授業や部活動等教育活動全般を通して、健康・安全に関心をもち、意欲的に取り組む姿勢や態度を育んだ。 ②学校保健計画に基づき食育を含めた保健指導や学校保健委員会等を計画的に実施し、心身への健康意識を高めた。	B
生徒指導	①生徒指導に関する情報収集を強化し、各組織（学年、指導部等）への連絡調整を行う。 ②日常の声掛けや励ましなどにより積極的な相談活動の充実を図り、生徒の心情を理解し寄り添う指導を心がけ、問題行動の予防・早期発見に努める。	①学期ごとの教育相談で情報を得るとともに、連絡会や学年会、指導部会などでの情報共有、指導方針の統一で一貫した指導をした。 ②日常の声掛けや励ましなどを積極的に行い、生徒の状態を共有することで、問題行動の予防・早期発見に努めた。	B
特別支援教育	①支援を要する生徒の実態把握を行い、ケース会議等を開いて生徒理解、指導の充実を図る。 ②校内研修会を通して教職員の理解を深め、校内の支援体制を構築する。	①特別支援委員会を定期的に開催し、生徒の実態把握を行った。その中で必要な生徒のケース会議を開いた。 ②9月に、発達障害についての研修を行い、教職員の理解を深め、特別支援に対する意識を高めた。	A
地域連携	①学家地連を開催し、学校の現状、地域の様子などを会議を通じて話合い相互の関係性を深める。 ②地区生徒会を通じて、地域に出向いての地域清掃や夏祭りの手伝いなどボランティア活動を生徒に推進する。	①学課地連を定期的に行い、生徒と地域とのかかわり合いをまとめたものを提示するだけでなく、各地域からの課題なども挙げてもらい、話し合う中で相互の関係を深めることができた。 ②地域清掃や夏祭りの手伝いを通して、地域に貢献することができた。	B
キャリア教育の推進	①1年次は様々な職種の方を招き、仕事についての講話を聞く。2年次は、事業所で仕事を体験することで、職業に対する理解を深める。 ②3年次は、1、2年次の活動を自らの進路選択に活かし、将来につなげる。	①1年次は様々な職種の方を招き、仕事についての講話を聞き、職業への理解を行った。2年次は、事業所で仕事を体験し、更に理解を高めた。 ②3年次は、1、2年次の職業調べや講話、体験を踏まえ、自らの進路選択に活かし、将来につなげた。	B
教育環境整備	①毎日の清掃活動に全職員当番生徒で取り組み、校舎内の生活環境を整える。また、老朽箇所の点検と、修復作業を組織的・計画的に推進する。 ②ガーデニング活動に参加し、保護者・地域の方々と植物を育て、落ち葉清掃や用務員さんと協力した外清掃を通し、校舎外の環境を整える。	①清掃活動、安全点検活動ともに、全職員と当番生徒で取り組み、生活環境を整えることができた。普通清掃ができない日が続く場合の環境整備が課題である。 ②学校の予定と合うことが難しく、保護者、地域の方々に頼るところが大きい。できる限り協力していきたい。	B
いじめへの対応	①生徒理解研修委員会やいじめ防止対策委員会を通し、全職員が生徒理解の意識を高め、具体的な取組を実践推進する。②毎月最終週の金曜日に全校生活意識調査を実施し、生徒理解、課題の未然防止に努める。合わせて、年二回YPアセスメントを活用した実態把握と課題の改善を行う。	①いじめ防止対策委員を中心に、情報を集約し全体にも共有し、いじめ防止に努めることができた。また、研修を通していじめに対する職員の感度を高めた。②生活意識調査をもとに生徒の理解に努め、職員間で共有しながら課題の未然防止につなげることができた。	B
人材育成・組織運営（働き方改革）	①学年会や指導部会など既存の組織によるOJTやメンターチームを組織し、ミドルリーダーを中心とした研修を行い、経験の少ない職員の指導力育成に努める。 ②働き方改革の視点から、持続可能な組織運営、部活動指導について検討し、適切な仕事内容、活動時間を探る。	①メンターチームを組織し、2か月に1回程度の研修を行った。ミドルリーダーが企画運営を行い、経験の少ない職員の指導育成に努めた。 ②庶務事務システムの導入により、勤務時間の割り振りが明確になった。仕事内容の精選や、校務分掌の割り振りなど、働き方改革に	B
ブロック内評価後の気付き	9年間で育てる子ども像をもとに、各学校での取組を始めた。取組の内容については、ブロック3校で共有できた。ただ、中学校側では、部活動が中心になって小学校とのつながりを担っていたので、委員会やボランティアなど様々な生徒を交えていきたい。 小中学校間での教職員の顔が見える関係も、昨年度以上にひんぱんに交流したり、意見交換の機会をもつことができた。今後も続けていきたい。		
学校関係者評価	夏祭りなど地域行事への取組が一生懸命な生徒が多く、高齢化した地域では、助かっている。 挨拶を活発にしようとする運動が、中学校だけでなく小学校と一緒に取り組んでいて効果が上がっている。 合唱コンクールなどの行事での生徒の前向きな姿勢が素晴らしい。また、合唱曲の完成度も高く生き生きとしている。 学習面にさらに力を入れられるようお願いしたい。		
中期取組目標振り返り	新しい学習指導要領を意識した研修会を何度も開き、教員の間では対話的な深い学びについて実践されることが多くなった。更に研修を深め、教員一人ひとりの授業力向上をめざし、お互いの授業を参観し力をつけたい。また、特別支援教育では、個別支援級への授業実践を多くとり、教員の意識改革を行い人権意識を高め生徒一人ひとりを大切にする教育活動の実践を図っていきたい。また、SDGsを意識して生徒の主体的な活動につなげられるようにしたい。		

重点取組分野	令和 2 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①新学習指導要領実施に向けて、ｶﾘｷｭﾗﾑﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄの作成、授業力の向上、教科連携の具体化に努める。 ②習熟度別少人数指導やTT指導の実施、特別支援教室の整備など、個に応じた指導を推進し学力向上を目指す。	①新学習指導要領実施に向けて、ｶﾘｷｭﾗﾑﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄの作成、評価についての研修、授業力向上を図る授業見学週間を設ける等の取り組みを行った。 ②TT指導の実施、特別支援教室の充実、放課後の学習支援活動など、個に応じた指導を行った。	B
豊かな心	①班活動や学級活動を通して、集団の中での自己擁立をはかり、自己有用感を高め、自己の生き方について考える。 ②道徳の授業や人権週間、人権講演会、人権標語作りに取り組む中で、考えを深め、思いやりの気持ちを育む。	①感染症拡大予防の対策をとりながら、班活動や学級活動を行い、集団の中での自己有用感が高められる活動をすることができた。 ②道徳の授業や人権週間、人権講演会、人権標語作りに取り組む中で、考えを深め、思いやりの気持ちを育んだ。	B
健やかな体	①保健体育の授業や部活動等教育活動全般を通して、健康・安全に関心をもち、意欲的に取り組む姿勢や態度を育む。 ②学校保健計画に基づき食育を含めた保健指導や学校保健委員会等を計画的に実施し、心身への健康意識を高める。	①新体力テストなどの結果などを踏まえながら、体力面と健康面の結びつき等の指導を行った。部活動では、普段からの練習で体力の向上を図れるように、指導を行った。 ②学校保健計画に食育を含めた保健指導や感染症対策を中心とした学校保健委員会等を計画的に実施し、心身への健康意識を高めた。	B
生徒指導	①生徒指導に関する情報収集を強化し、各組織（学年、指導部等）への連絡調整を行う。 ②日常の声掛けや励ましなどにより積極的な相談活動の充実を図り、生徒の心情を理解し寄り添う指導を心がけ、問題行動の予防・早期発見に努める。	①教育相談や「PPEMIUM FRI(KAERI) DAY」を通して情報を得るとともに、連絡会や学年会、指導部会などでの情報共有をした。 ②日常の声掛けや励ましなどを積極的に行い、生徒に寄り添い、相談しやすい関係づくりに努めた。登下校指導などにも多くの職員で関わり更に生徒理解に努めていきたい。	B
特別支援教育	①支援を要する生徒の実態に合わせた支援を提供する校内体制を構築する。 ②学習支援室「オアシス」での支援を充実させる。 ③特別支援に関する外部講師を招いた研修会を行う。	①特別支援委員会において、生徒の実態をアセスメントし、必要な支援を組織的に提供した。 ②「オアシス」での学習支援が、生徒一人ひとりにあった学習計画で継続した支援をすることができた。 ③具体的な事例に沿ったケース会議を行い、職員全員で今後の支援計画の立て方を研修することができた。	A
地域連携	①領家中学校ブロックで生徒会を中心に幟を立てるなどして挨拶運動を推進し、その後地域にも幟を広めていきながら地域ぐるみで挨拶運動を広めていく。 ②地区生徒会を通じて、地域の清掃活動や夏祭りの手伝いなどボランティア活動を推進する。	①校内で、生徒会本部を中心に、あいさつ運動を行うことができた。横浜こども会議の中で、小中合同で地域に向けてのあいさつ運動が提案され、今後行う予定である。 ②本年度は感染症予防のため、地域清掃や夏祭りなど実施されなかったため、活動をすることができなかった。	B
キャリア教育の推進	①1年次は様々な職種の方を招き、仕事についての講話を聞く。2年次は、事業所で仕事を体験することで、職業に対する理解を深める。 ②3年次は、1、2年次の活動を自らの進路選択に活かし、将来につなげる。	①感染症拡大防止の対策により、講話・事業所での体験を実施することができなかった。職業調べ等を行わせ、職業に対する理解を深めた。今後も、状況に応じ体験学習等ができるかどうかを検討していく。 ②自らの進路を真剣に考えることで、将来への展望を開くことができた。今後も継続していく。	B
教育環境整備	①清掃活動の有無にかかわらず、毎日の清掃活動に全職員当番生徒で取り組み、校舎内、付近の環境を整える。また、老朽箇所の点検と、修復作業を組織的・計画的に推進する。 ②保護者・地域の方々と植物を育て、落ち葉清掃をはじめとする外清掃を通し、校舎外の環境を整える。	①清掃活動の有無にかかわらず、毎日の清掃活動に全職員当番生徒で取り組み、校舎内、付近の環境を整えた。また、老朽箇所の点検と、修復作業を組織的・計画的に推進した。 ②環境委員会を中心に植物を育て、落ち葉清掃をはじめとする外清掃を通し、校舎外の環境を整えた。	B
いじめへの対応	①いじめ防止対策委員会で話し合った内容を全職員で共有すると共に。研修を開きいじめに対する職員の感度を上げることに努める。 ②全校生活意識調査を実施し、生徒理解、課題を共有し職員全体で未然防止に努める。年二回YPアセスメントの結果を共有し、生徒個々の指導に役立てる。	①いじめ防止対策委員を中心に、話し合った内容を共有することはできた。研修を開いたり、職員向けのロールプレイなどを配布するなどの取組を行ったが、職員の感度を高めるには至らなかった。 ②生活意識調査やYPアセスメントの結果は共有できているが、生徒個々への指導にはつながらな	B
人材育成・組織運営（働き方改革）	①メンターチームを組織し、ミドルリーダーを中心としながら、学期に数回の研修を行い、経験の浅い職員の育成を図る。 ②働き方改革の視点から、持続可能な組織運営、部活動指導について検討し、適切な仕事内容や活動時間を探る。	①メンターチームを組織し、保健関係、生徒指導、人権についてなど様々な研修を行った。また、ミドルリーダーによる研修も行い、互いに成長できた。 ②部活動についてはコロナ対応により、活動時間が制限されているため、教員の時間的負担は減った。職員にアンケートを実施し、率直な思いを受け止め、働き方改革に有用な意見を募った。	B
ブロック内評価後の気付き	令和2年度は、感染症拡大防止対応のため、予定していた児童生徒交流日や部活動（陸上部・吹奏楽部）の交流、小中合同の挨拶運動は実施を見合わせた。少人数での子ども会議の実施、人権標語の作成掲示、中学校生徒会本部役員が紹介VTRを作成し、小学校に届けるなどして児童生徒間の交流を図った。教職員は、互いに訪問して授業見学を行い、児童生徒の様子を捉えた。地域での清掃活動やお祭り手伝いは行事が中止となったため参加できなかった。次年度は感染症拡大防止に努めつつ、可能な限り、児童生徒、職員間の交流や情報共有を図りたい。		
学校関係者評価	令和2年度は、コロナ感染防止のため、3密になる諸行事の中止を決断する年でした。学校を訪問する機会はありませんでしたが、通学時間帯に散歩や植木の水やりをし、見守り活動を行っています。また「領家だより」等で中学生の元気な姿を拝見していました。いじめや生徒対応等で、職員の感度を上げるための研修等をしていただければと思います。 令和3年度は3密にならない諸行事（地域清掃など）ができないか模索中です。その時は中学生も地域の一員としてご協力をお願いしたいです。		
中期取組目標振り返り	コロナ感染拡大防止により、学校行事の中止や縮小など教育活動が制限される中、ブロック内での交流や地域との関わりが持てなかった。今後は、感染症対策を施しながら少しずつ関わりを増やしていきたい。また、生徒指導やいじめへの対応においては、様々な研修等により教職員の意識改革やスキルアップを図るとともに、生徒一人ひとりを理解し、生徒が気軽に相談できるような信頼関係づくりに力を入れていく。さらに、いじめをなくすための生徒の話し合いや活動を充実させ、誰もが安全で安心して過ごせる学校にしていきたい。		

重点取組分野	令和 3 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①新学習指導要領を実施する中で、職員相互の授業見学や研修会を行い、授業力の向上、教科連携の具体化を図る。 ②TT指導の実施、特別支援教室の整備など、個に応じた指導を推進し学力向上を目指す。	①授業見学週間設定し、教科の枠をにとらわれず、授業見学を行った。新学習指導要領における評価方法の研修も行い、共通理解を図ることができた。 ②TT指導の実施やICTを活用して個に応じた指導の幅を広げた。特別支援教室の設備を整えた。	B
豊かな心	①班活動や学級活動を通して、集団の中での自己擁立を図り、自他の生き方について考え、いじめを防ぐ生徒集団の育成を目指す。 ②道徳の授業や人権週間、人権講演会、人権標語作りに取り組む中で、考えを深め、自他を思いやる気持ちを育む。	①感染症対策をとりながら、班活動や学級活動を工夫して行い、集団の中での自己を認識し、自他の生き方について考え、よりよい人間関係を形成できた。 ②道徳の授業や人権週間、人権講演会、人権標語作りに取り組む中で、考えを深め、思いやりの気持ちを育んだ。	A
健やかな体	①保健体育の授業や部活動等教育活動全般を通して、健康・安全に関心をもち、意欲的に取り組む姿勢や態度を育む。 ②学校保健計画に基づき食育を含めた保健指導や学校保健委員会等を計画的に実施し、心身への健康意識を高める。	①保健体育や部活動など教育活動全般を通して、健康・安全に関心をもち、意欲的に取り組む姿勢や態度を育んだ。 ②学校保健計画に基づき食育を含めた保健指導や学校保健委員会等を計画的に実施し、感染症予防対策を中心に心身への健康意識を高めた。	B
生徒指導	①生徒情報の伝達を細かく行い、全職員で共有する。毎回の学年会で確認し、継続した見守りを行う。 ②日常の励ましや声かけを職員から行い、挨拶や登下校指導を行う中で、生徒との関係づくりを密にし、生徒に寄りそい相談しやすい関係づくりを行う。	①年度初めに各学年の生徒情報の共有を丁寧に行った。学年会でも生徒情報を細かく共有した。 ②授業間の巡回や下校指導に努め、その中で生徒への声かけや見守りを行った。また、生徒の状態を共有することで問題行動の予防・早期発見に務めた。	B
特別支援教育	①支援を要する生徒の情報を教職員全体で共有し、実態に合わせた多面的支援を提供する校内体制を構築する。 ②「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」を組織的に作成し、全教職員で共有し、活用する。 ③特別支援に関する実践的な研修会を行う。	①支援を要する生徒の情報を共有し、実態に合わせ多面的支援方法を検討、周知した。 ②「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」の作成基準と全教職員への共有方法の見直しが必要である。 ③アセスメントや合理的配慮について研修を行い、指導に活用できる研修を行った。	B
地域連携	①領家中学校ブロックで生徒会を中心に幟を立てるなどして挨拶運動を推進し、その後地域にも幟を広めていきながら地域ぐるみで挨拶運動を広めていく。 ②地区生徒会を通じて、地域の清掃活動や夏祭りの手伝いなどボランティア活動を推進する。	①領家中学校ブロックで学期始めに幟を三つの門に立てるなどして挨拶運動を推進することができた。ただ、地域への幟の配布ができていないので、今年度中には行いたい。 ②本年度は感染症予防のため、地域清掃や夏祭りなど実施されなかったため、活動をすることができなかった。	B
キャリア教育の推進	①1年次は様々な職種について調べ、身近な人にインタビューをする。2年次は、事業所で仕事を体験、または、講話を聞くことで、職業に対する理解を深める。 ②3年次は、1、2年次の活動を自らの進路選択に活かし、将来につなげる。	①職業講話のビデオを視聴することにより、働くことに対する意識を高めた。 ②様々な職種の人にインタビューを行い、職業に対する理解を深めた。	B
教育環境整備	①清掃活動の有無にかかわらず、毎日の清掃活動に全職員当番生徒で取り組み、校舎内、付近の環境を整える。また、老朽箇所の点検と、修復作業を組織的・計画的に推進する。 ②環境委員会を中心に植物を育て、落ち葉清掃をはじめとする外清掃を通し、校舎外の環境を整える。	①清掃活動の有無にかかわらず、毎日の清掃活動に全職員当番生徒で取り組み、校舎内、付近の環境を整えた。また、老朽箇所の点検と、修復作業を組織的・計画的に推進した。 ②環境委員会を中心に花壇の植物を育て、落ち葉清掃をはじめとする外清掃を通し、校舎外の環境を整えた。	B
いじめへの対応	①いじめ被害防止の為に引継を確実に行い、定期的（学年会・職員会議）な情報共有を図る。 ②気になる生徒の情報を学年主任、各学年の生徒指導部と共有し、事案が起きた際は、すぐに学年職員に伝達し、組織的に対策を考え対応する。	①いじめ対策防止委員会での共有だけでなく、学年や全職員に学年会や職員会議で情報共有をすることができた。 ②年度初めに各学年の生徒について丁寧に共有することができた。生徒指導は各学年で動くことが多かったが、報告書で内容を共有した。	B
人材育成・組織運営（働き方改革）	①メンターチームを組織し、ミドルリーダーを中心としながら、学期に数回の研修を行い、経験の浅い職員の育成を図る。 ②働き方改革の視点から、持続可能な組織運営、部活動指導について検討し、適切な仕事内容や活動時間を探る。	①メンター対象者が少ないため変更が必要。次年度はスキルアップ研修として、希望者対象に人材育成を行っていきたい。 ②コロナ禍の制限により、教職員の放課後負担は時期的に少し減った。しかし、根本的な負担軽減や働き方改革には至っていない。	B
ブロック内評価後の気付き	令和2年度に引き続き、感染症拡大防止対応のため、予定していた児童生徒交流日や小中合同のあいさつ運動は実施を見合わせた。少人数での子ども会議の実施、人権標語の作成掲示、中学校生徒会本部役員が紹介VTRを作成し、小学校に届けるなどして児童生徒間の交流を図った。教職員は、小学校を訪問して授業見学を行い、児童の様子を捉えた。地域での夏祭りボランティアや清掃活動は、行事が中止となったため参加できなかった。次年度は感染症拡大防止に努めつつ、可能な限り、児童生徒や職員間、地域との交流や情報共有を図っていきたい。		
学校関係者評価	コロナ禍で夏祭りや地域清掃が中止となり、中学生が地域ボランティア活動に参加する機会がなく1年が過ぎてしまいました。令和4年度は事業の実施が図れることを期待しています。人権意識の高まりは、学校便りや新聞上でもうかがい知れました。また、キャリア教育に関しては農業や環境問題など大切なことに気づかせる視点も大切にして行けるといいと思います。あいさつに関しては、校内ではよくあいさつが交わされるようなので、それを地域に出ても同じように行えるよう、地域として学校から提供された幟を掲げ、人と人の繋がりの一歩としてあいさつ運動を推進していきます。		
中期取組目標振り返り	今年度もコロナ禍による感染症対策を施しての教育活動となったが、可能な範囲の中でそれぞれの部署で工夫しながら教育活動を続けることができた。リモート授業による学習の継続や職業インタビューや保護者説明会等、様々な場面でICTの活用を広げることができた。今年度特に力を入れた特別支援教育やいじめの防止や対応において、教職員の意識向上やスキルアップにより、生徒理解や信頼関係づくり、組織的な対応もできている。今後も教職員が現状で満足するのではなく、さらに工夫・改善していこうとする意識をもち続けていくことで、誰もが安全で安心して過ごせる学校につなげていきたい。		